

# 令和3年第4回定例会（11/30～12/16）

## 定例会の概要

### 総額1,680億9,900万円余の令和3年度補正予算を可決

知事から予算案2件（新型コロナウイルス感染症対策をはじめ、当面措置を要する経費などについて、必要な予算措置を講じるための補正予算案など）と条例案12件、その他の案件7件が提案され、議決しました。

また、前会より継続審査の決算案件6件を認定し、議員や委員会から提出された意見案5件を原案のとおり可決しました。

## 主な審議日程

11月30日	本会議（開会）
12月3日～12月7日	本会議（一般質問）
12月7日～12月14日	予算特別委員会
12月15日	常任・特別委員会
12月16日	本会議（閉会）

## 本会議や予算特別委員会の主な議論

### 新たな変異株「オミクロン株」への対応

オミクロン株の道内への流入を防ぐため、水際対策や監視体制の強化、国や航空会社などの関係者との連携にどのように取り組む考えか。

### ワクチンの3回目接種

新型コロナウイルスの3回目のワクチン接種を円滑に行うため、ワクチンの確保や道内各市町村の計画的な接種体制の構築に向け、どのように取り組む考えか。

### 第三者認証制度

飲食店における感染防止対策の認証制度について、制度の普及を進めるため、道内の飲食店経営者への周知や支援など、認証店の拡大にどのように取り組む考えか。

### 太平洋沿岸の漁業被害

北海道の太平洋沿岸で広範囲にわたって確認された赤潮による漁業被害について、漁業関係者への支援や漁場再生、被害の未然防止にどのように取り組む考えか。

### 原油価格の高騰

原油価格の高騰を受け、生活困窮世帯への支援や、社会福祉施設、中小企業・小規模事業者への支援など、今後どのように取り組む考えか。

### 新エネルギー導入加速化基金

太陽光発電や風力発電などによって得られるエネルギーである「新エネルギー」の導入を加速化するための基金について、今後どのように運用し導入促進に取り組む考えか。

## 主な議決の状況

### 知事提出案件

【予算案】 2件 「令和3年度北海道一般会計補正予算（第6号）」（原案可決） など

【条例案】 12件 「北海道職員の給与に関する条例等の一部を改正する条例案」（原案可決） など

【その他の案件 / 決算】 7件 / 6件

### 議員・委員会提出案件

【意見案】 5件 「北海道太平洋沿岸の漁業被害に関する意見書」（原案可決） など

定例会の詳細は、道議会Webサイトや北海道議会時報をご覧ください。

## 道議会Q & A

Q 上の「主な議決の状況」に書いてある、「意見書」って何？

A 地方公共団体（道議会の場合は北海道）の公益に関することについて、議会としての意思を決定し、国会や国の関係省庁などに対し文書を提出することができます。その文書のことを意見書といいます。

今回は、赤潮の被害状況調査に対する支援を行うことなどを国に対して要望したよ。

## 道議会キーワード

デジタルの力で、北海道を元気に！

北海道ICT利活用推進キャラクター「ドーチョくん」



## 「北海道Society5.0」

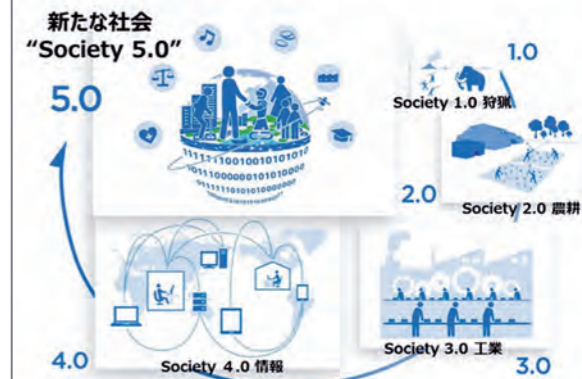


道は、ICT（情報通信技術）やAI（人工知能）、ロボットなどの未来技術を活用した、活力にあふれる北海道の未来社会を「北海道Society5.0」として、その実現に向けた取組を推進しています。

2030年ごろを想定しているよ！

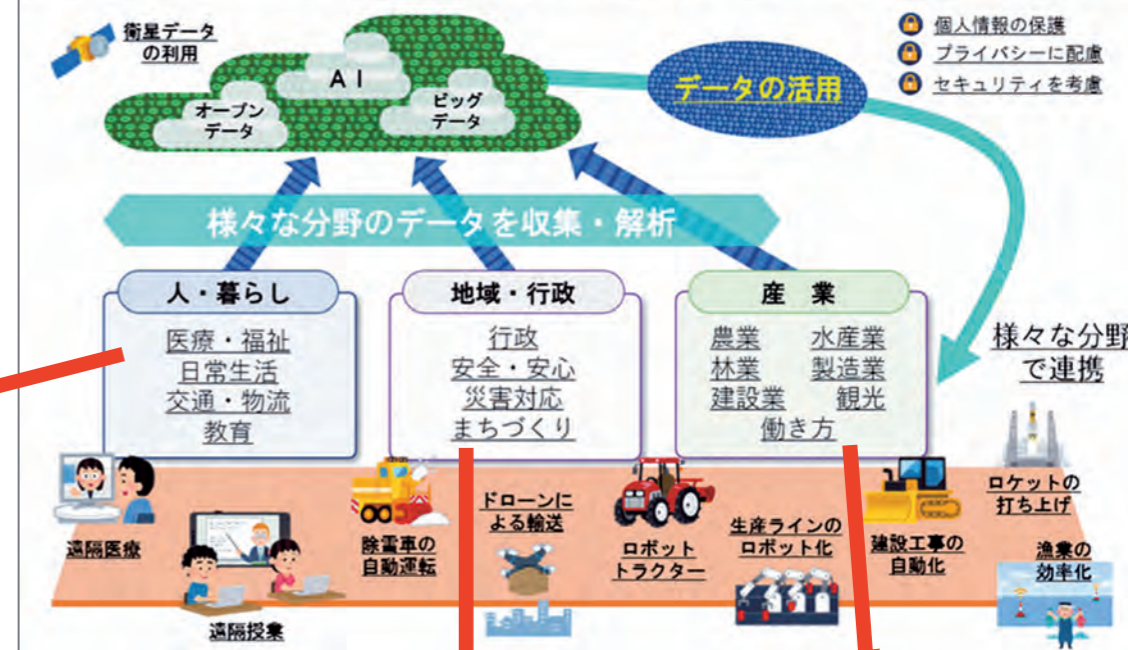
そもそも、「Society5.0」って？

狩猟社会（Society 1.0）、農耕社会（Society 2.0）、工業社会（Society 3.0）、情報社会（Society 4.0）に続く、サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会とされています。

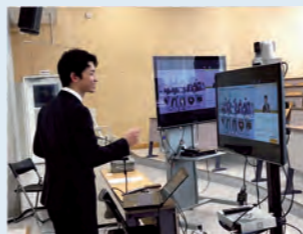


出典：内閣府ホームページ（https://www8.cao.go.jp/cstp/society5\_0/）

## 概ね10年後の北海道の未来社会「北海道Society5.0」の姿



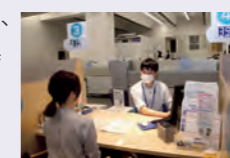
### ICTを活用した「遠隔授業」



道では、遠隔授業の機能を集中した「北海道高等学校遠隔授業配信センター（T-base）」を開設し、地域連携特例校や離島にある高校に、専任教員が授業を配信しています。

### 住民目線でデジタル化「書かない窓口」

北見市では、窓口支援システムの導入により、来庁者が申請書を書かずに手続きが完了する「書かない窓口」を実現。RPA（※）も導入し、事務の効率化と来庁者の待ち時間短縮など、市民サービスの向上につながっています。



※RPA：パソコン操作自動化ソフトウェア

### 「スマート農業」の推進

トラクターの自動操舵や搾乳ロボット、ドローンによる画像分析や農薬散布など、ICTやロボット技術を使ったスマート農業技術が生産現場に導入されています。

